

連載企画 SDGs 取り組み事例紹介

株式会社宮城日化サービス

～品質向上と効率化が更なるSDGs貢献につながる～



【会社概要】

1971年（昭和46年）日立化成工業株のサービス会社として住宅設備と浄化槽の維持管理を主な事業として仙台市に設立。現在は、管路の調査・清掃・更生工事をはじめとした公共工事にも事業を拡げ、民間・公共を問わず幅広くインフラ整備の業務を行っている。

管路更生事業は公共下水道をはじめ、農業集落排水・河川の樋管・工場等の排水管など幅広い施設に対応し、現在は同社のコアとなる業務である。

【話し手】

（株）宮城日化サービス 代表取締役社長 伊東史磨

—SDGsの取り組みをはじめたきっかけについて お聞かせ下さい。

以前は社業を通じて社会貢献しているのは当然のこととして、それを殊更に言うようなものではないという感覚だったので、特にSDGsについて何かアピールすることはありませんでした。しかし昨今の人手不足に加えて、東日本大震災直後には1年間求人を出しても応募がほとんど無いような、いよいよ困った状態になっていた折に接した学生達との対話

で、それではまずいと認識を新たにしたいのがきっかけです。今の学生としては、就職先の候補としてSDGsに言及している企業を優先すると言うのです。なぜなら、SDGsとは「持続可能（サステナブル）な開発目標であり、それに取り組んでいない（と思われる）企業は将来性に疑問があるので、やはりSDGsに積極的な企業を選ぶ」、という非常に明確なものでした。彼らは子供の頃から学校で当たり前SDGsの教育を受けているため、サステナブルが必須科目であり社会常識となっているのですね。



〈学生との面談風景〉

コンサルタント会社に相談したところ、やはり事業活動を通じた社会への貢献と、地域コミュニティ

に関わる側面におけるSDGsについて積極的にアピールすべきとの指摘があり、その視点から昨年SDGs宣言を作り公表しました。また、我々はどうしても下水道の仕事とは3K労働と思われるだろうなと思い試行錯誤しながらリクルートしてきましたが、「マンホールの中に入れるお仕事です！」と前向きなキャッチフレーズで訴えることを提案され、その言葉に惹かれたという複数名の応募があったのです。このように、自分達のやっている意識だけに縛られず外部から客観的に見てもらうと、環境に良い仕事を楽しくしているという目線を変えた発信ができるようになってきました。

——管路更生を通じてSDGsに貢献している事について教えてください。

管路更生工事は夜間に短時間で行なわれるため、一般市民の方々がほとんど気が付かないまま施工が済んでしまいます。そのように市民に負担の少ない工事であるために、逆によく目に付く開削工事と比較される機会があまり無く、その良さが認識してもらっていないのが実情なのではないでしょうか。

分かりやすく例えると、カテーテル手術のようなもので、開腹手術と比べると患者の負担は格段に軽減されるのと同じだと思います。下水道の場合ですと、マンホールから更生材を挿入して古くなった既設管きよの中に、新たな下水道管を構築しますので、道路面を掘削する必要がないため舗装ガラ等の発生がなく、交通への影響も最小限で済みますから、住民生活に対する負担は極めて軽いものです。また、管路更生工事に伴って工事に要する日数は、開削と比べて半分以下と格段に短くなりますし、使う電力量も発電機1~2台あれば十分ですので環境にも優しいと言えます。

——SDGsの取り組み全般について概説して下さい。

当社では昨年、コンサルタント会社と連携しながらSWOT分析(強み弱み)やリスクインベントリをベースに事業内容を再認識した上で、SDGs宣言を表明しました。則ち、社会課題解決への貢献、環境配慮、健康経営、情報開示の4項目で、この中で挙げた具体的な取り組み目標に向けて活動を進めているところです。



まず、以前から運用していたISO9001を再整備し、環境に配慮した活動を行なう企業に与えられる「みちのくEMS認証」*の取得と、それに基づいた環境方針の策定を実施しています。

❖みちのくEMSとは❖

地域独自の環境マネジメントシステムである「みちのく環境管理規格」(略称「みちのくEms」)が平成15年12月に策定されました。また、この規格を普及し、規格に取り組む事業者を認証・登録する組織として、「みちのく環境管理規格認証機構」が設立されました。「みちのくEms」は、中小規模の事業者でも比較的容易に取り組むことのできる環境マネジメントシステムであり、その構築支援及び認証登NPO法人環境会議所東北により行われています。



次に、2022年仙台市が発行する第1回「グリーンボンド」公募公債に投資をしました。これは、気候変動の緩和・適応に資するプロジェクトなどの資金調達のために発行される債券のことで、仙台市においては、東日本大震災の経験から進められている「防災環境都市づくり」に必要な下表の環境整備に充当されます。当社は、本債券へのESG投資のスタートとして、今後もSDGs債への投資を継続的に

〈仙台市グリーンボンド調達資金の用途〉

分類	プロジェクト
再生可能エネルギー	・市有施設への再生可能エネルギー設備導入
エネルギー効率	・市有施設のエネルギー効率改善を含む長寿命化改修 ・ごみ処理施設整備（含む改良や更新等）
グリーンビルディング	・環境性能の高い市有施設の新築、改築
気候変動への対応	・道路等防犯対策、道路整備（排水性・透水性舗装） ・河川改修、浸水対策 ・急傾斜地緑地防災対策

実施することで、環境と社会課題の解決につながる事業や、SDGsの達成に貢献する事業を資金面からもサポートしていきたいと思えます。

同じく地域貢献の観点から、仙台市が保有する下水道管路施設等の維持管理に係る業務を一括して委託される「仙台市若林区下水道管路施設等維持管理

業務委託」にも2021年より受注組合の一員として参加させて頂いています。

また、仙台市「下水道管路施設の災害時復旧応援に関する協定」に基づく体制の一部としても活動しており、これからは災害時の緊急調査や修繕・復旧工事を迅速に行えるよう貢献を続けていきます。



〈仙台市との協定による防災訓練の様子〉

——貴社の目指すSDGs2030年はどんな姿ですか？

管路更生工法は、そのもの自体がSDGsに貢献する社会的ツールですので、それを本業とする当社は管路更生工事を正しく行なう事が、最も大切なSDGsなのだと心得ます。

但し、いくら管路更生で施工しても、もしそこに段取りの悪さや施工ミスによる手戻り等があれば余計な日数や廃棄物を発生させることに繋がります。だから日々の作業の品質向上と効率化を追求した上

で、更に環境にも配慮した取り組みも続けなければならないと思います。

例えば、施工の自動化など劇的な変化はすぐには難しいですが、エネルギーを自給できるようにソーラーパネルを屋根に取り付けるとか、各種報告書はAIの発達により作業効率を上げるような取り組みは近い将来出来そうです。しかし何でも自動化、効率化してしまうと、今の仕事スタイルによってこそアドレナリンが出るワクワクする部分、つまりマンホールの中へ探検に行くアドベンチャー感が損なわれてしまうので、そこは気を付けたいと考えています。



〈マンホールの中に入れるお仕事〉

SDGs宣言書

株式会社宮城日化サービス
2022年10月11日

当社はSDGsの内容を理解し、SDGs達成に向けた取組を下記のとおり宣言します。

取組カテゴリ	SDGs達成に向けた重点的な取組テーマ	取組の内容	関連が強いSDGsゴール
製品サービス	地域貢献 社会課題解決への貢献	培ってきた技術力を通じ、公共インフラ設備の耐久性向上、維持に貢献してまいります。 <ul style="list-style-type: none"> 管路更生工法（地下埋設管路を内側からリニューアルすることで耐久性の維持、向上を図るとともに、工事規模を最小限に抑える工法）に基づく施工を通じ、社会インフラ設備の効率的維持に貢献 水処理施設の適正な維持管理を通じた、水環境の保全に貢献 ISO9001を取得し、各種体制を整備 	8 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 持続可能な住居とコミュニティ 12 つくばない消費を 14 海の豊かさを守ろう
環境	環境配慮	自社の環境方針に沿って、事業活動を通じた地域環境に与える影響を考慮し、環境汚染の防止を徹底しています。 <ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した活動を行う企業に与えられる「みちのくEMS認証」を取得 上記に基づいた環境方針を策定 	11 持続可能な住居とコミュニティ 12 つくばない消費を 13 気候変動に具体的な対策を
人権・労働	健康経営 労働環境の整備	働きやすい環境の整備、従業員の健康への配慮を欠かすことなく行い、健康経営の実現に努めています。 <ul style="list-style-type: none"> 全国健康保険協会認定の「職場健康づくり宣言認定書」の策定を実施 健康相談、メンタルケアカウンセリングサービスの相談窓口を設置 	3 健全な働き場をこころよく 8 質の高い教育をみんなに
コミュニケーション	情報開示	自社のSDGsへの取組についての情報開示を行うとともに、持続可能な社会の実現に貢献していきます。 <ul style="list-style-type: none"> 自社のSDGsに関する目標の開示を行い、持続可能な社会の実現へ貢献 「77SDGs支援サービス」を活用した自社の取組目標の策定 ニュースリリースを通じた情報開示 	17 パートナリシップで目標を達成しよう

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) は、持続可能な開発のために国連が定めた国際目標です。2030年までに世界において解決すべき17のゴールを定めています。SDGsは、2030年の未来の「あるべき姿」もしくは私たちが直面している社会課題が、分かりやすく・バランス良く「見える化」されたものであり、企業がその経営や未来の姿を検討する際に役立つツールと言えます。

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 全ての人の健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等の実現	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	

